

■ 衝突軽減ブレーキ (CMBS)

衝突軽減ブレーキ (CMBS) は、自車が、前方の車両 (二輪車含む) のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車両に正面から衝突するおそれがあるとき、前方の交差車両に衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車 (移動する自転車) に衝突するおそれがあるときに、運転者に警告したり、運転者のブレーキ操作の支援や、衝突回避の支援、衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

自車の車速が約5km/h以上になるとレーダーセンサーとカメラが前方の車両 (二輪車含む)、歩行者および移動する自転車の検知を開始します。自車との速度差が約5km/h以上ある車両 (二輪車含む)、歩行者および移動する自転車に対して衝突のおそれがあるときに、CMBSが作動します。また、交差点などでの左折や右折時は、自車が約30km/h以下で走行中に対向車両 (二輪車含む)、歩行者および移動する自転車に対して正面で衝突するおそれがあるときに、CMBSが作動します。

CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。

＜第1段階＞ 衝突のおそれが出てきた状況

警告表示が点滅します。さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行います。

＜第2段階＞ 衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況

警告表示およびブザーによる警報を行い、軽いブレーキがかかります。

＜第3段階＞ 回避が困難な状況

警告表示およびブザーによる警報を行い、強いブレーキがかかります。

状況によっては途中段階から作動することがあります。

CMBSによるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

CMBSの作動により停車、または減速した後は、システムの判断によりCMBSは解除されます。

衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

CMBSは、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

ご使用前に、必ずご使用になる機種の手取扱説明書をお読みください。

取扱説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

■ 路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、システムが車両の車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線（黄線）、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知し、方向指示器（ウinker）を使用せずに白線（黄線）を逸脱した、または、草、砂利などの道路境界や対向車両へ接近したことを判断したとき、作動します。車線区画線（白線や黄線）を検出できない場合、対向車両への接近を回避する支援は行いません。

マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。一時停止状態から数分経過すると、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が消灯し路外逸脱抑制機能は復帰します。

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

ご使用の前に、必ずご使用になる機種取扱説明書をお読みください。

取扱い説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

■ 踏み間違い衝突軽減システム

踏み間違い衝突軽減システムは近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能の3つの機能を持ったシステムです。ソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物に衝突するおそれがある場合のブレーキ制御や壁などの障害物があるにもかかわらずアクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合のパワーシステムの出力抑制により、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

近距離衝突軽減ブレーキ

約2km/h～約10km/hで走行しているとき、壁などの障害物に衝突するおそれがあるとき運転者のブレーキ操作を支援し、音と表示でお知らせします。

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能

停車時や約10 km/h以下で走行しているとき、自車のほぼ正面もしくは真後ろの近距離に壁などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともにパワーシステムの出力抑制をすることで急な前進・後退を防止します。

踏み間違い衝突軽減システムは、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎ、または見落としによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。

機能に頼った運転をすると、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

ご使用の前に、必ずご使用になる機種取扱説明書をお読みください。

取扱い説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

■ アダプティブドライビングビーム

夜間走行時にフロントワイドビューカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてハイビームとロービームが自動で切り換わります。また、先行車や対向車への眩惑を軽減するため、ハイビームの配光が自動で調整されます。さらに、ロービーム点灯中、かつ車速40km/h以下ではロービームの照射範囲を広げ、左右の視認性を向上させます。

システムの作動

以下の条件をすべて満たすとアダプティブドライビングビーム表示灯が点灯し、状況に応じて自動的にハイビームの配光が調整されます。

- ・パワーモードがONモード
- ・ライトスイッチがAUTOの位置
- ・レバーがロービームの位置
- ・ヘッドライトが自動で点灯している
- ・車両の周囲が暗い

アダプティブドライビングビームを正しく動作させるために次のことをご守りください。

- ・インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- ・カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- ・フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- ・カメラ付近のガラスにアクセサリ、ステッカーやフィルムを取り付けない
- ・カメラのレンズに触れない

アダプティブドライビングビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。

あくまでも、運転者をアシストするための機能です。

常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。